

「関東明教」発刊にあたって

関東支部長 和食 克雄

(昭和31年卒)

昨年の7月の関東支部総会において、今年度の活動の一つとし、会報の発行が決議され、昨年の秋から編集会議の人選に入り、新年明けから企画案をまとめ、原稿等をお願いにまわりました。多くの会員の方々から暖かい声援とご協力を得まして、ここに「関東明教」創刊号が出来上がりました。

幹事会、編集会議等であまりきばらないで回数を出す方が良いのではないかとのご意見もありましたが、伝統ある母校、松山中学・松山東高の格式を重視して編集させていただきます。

会報準備に際して、西条高校の東京での同窓会「東京道前会」の機関誌等を参考にさせていただきますでしたが、愛媛県尋常中学校(現松山東高)の東予分校が西条高校であることから、東京道前会以上のものと編集員一同努力いたしました。

投稿は、目次をみていただいておりますの通り、各界で活躍されておられる先輩諸氏のユニークなご意見・経験談等々、バラエティーに富んだものとなっております、実に含

蓄のある内容で非常に楽しく読めます。今回は支部長はじめ編集員の人脈を最大限に活用させていただきましたが、関東支部会員はまだまだ人材の宝庫であり、投稿をお願いしたい人材はたくさんおられます。次回からネットワークを広げ、今以上に豊富な内容にしたいと考えております。

私の経験から自らの家系と同窓会(出身学校)は最も大切にすべきものと思っておりますが、かつ、立派な社会人になるためのサポートをいただくものでもあります。私は関東支部長として、若い人達の人脈の充実に最大限活用していただきたいと強く希望しております。その為に名刺広告と専門家のリストをPR的に掲載させていただきますました。ご批判もあると思いますが、当創刊号に掲載しました同期会報告にもあります様に、心のよりどころとしての同期会の会合も必要です。若い年代は、まだ同期会の開催もないところもありますが、仕事が忙しい!とか経済的に大変な時期であるとか等々の理由は、現在の経済環境の中でよく理解できます。しかし、楽しい一生を過ごす潤滑油の一つとして同期会を企画して経済的に利害関係のない仲間との語らいも良いのではないのでしょうか。

私事になりますが、昨年の6月に株式会社東京相和銀行の金融整理管財人を拝命し、わが国の金融再生に向けて微力ながら頑張っておりますが、激務の合間に同窓会の方々からの電話等をいただく心が和みます。かつ、仕事だけでなく、余暇の利用が業務上の活力となることも身をもって味わっております。

この「関東明教」は、松山中学・松山東高同窓生の社会での活動状況をお知らせするものとして、今後ともより有意義なものとなることを願っています。

実際、会報編集には手間が掛かり、皆様方に多大のご迷惑をお掛けしましたが、出来上がったときの喜びはいかなる時でいいものです。若い会員の方々の協力を今以上に得て、ユニークで楽しい会報になることを心より希望しています。

ご協力くださった多くの会員の方々に衷心より御礼申し上げます。